

月刊「多自然研究」会員募集

多自然研究は95年10月にスタートしたこんな情報誌です。

◎読者の方々からの投稿により誌面を構成します。

『多自然研究』は『多自然研究ネット』に登録していただいた方々の情報交換・交流・発表のための雑誌です。掲載する情報は読者の方々からの投稿を中心に構成します。

情報を広く全国へ伝えたい人に、集めたい人に、知りたい人にフルに活用していただきたい『多自然研究』です。

◎多自然研究は幅広いネットワークの情報誌

『多自然研究』は『多自然研究ネット』に住所、氏名等を登録していただければどなたにでもお届けします。全国の研究者、研究機関、活動グループ、コンサルタント、行政部局、企業、川づくりに関心を有するの方々などを幅広くネットワークします。

◎毎月1回お届けします。

『多自然研究』は毎月1回、年12回発行します。ですから、新しい情報が全国へ素早く伝わります。『多自然研究』はリバーフロント整備センターから皆様へ、毎月直接郵送によりお届けします。

◎会費

会費は、個人会費が年3,000円、法人会費が年15,000円です。

【お問い合わせ】

財団法人 リバーフロント整備センター 研究第2部
多自然研究編集部
安田、美寺、富田
03-3265-7121

〈編集部だより〉

●ものを引き続き観察することは、その現況を知り将来を予測することがある意味で可能となるようである。

その良い例がある地点から見える富士山を一年間通して記録することが有名だ。新宿副都心の某ホテルから、橋の上からとか、写真を撮り続けている人もいるそうである。二十年くらい続けていると観察の結果から今年の気候はどうだとか、明日は晴れるとかかなりの確率で予測できるようだ。

私は通勤に常磐線を使用しているが、同様の事を川にもいえるのかと鉄橋が近づく度に川面に目を凝らすことにしている。なるほど、上流で強い降雨があったことや、どうも水質が思わしくないようだとか、河口の堰を閉めているので流れが無いようだとかいろいろな事が見えてくる。

元来の不精者なのでノートに付ける事などは行っていないが今日の天気だとこんな状態かな位は予想を立てることはできるようになった。なかなか楽しいものであるが、やはり川はいつもと滔々と流れ、清いものであって欲しい。ゴミが浮かんでいたり、無秩序にボートなどが係留してあるのを見るのはあまり面白くない。

2年間通った成果だろうと思う。川は我々を慈しんでくれる母であり続けて欲しい。そのためには今後とも微力を尽くしていきたい。応援をお願いいたします。(U, H)

●今までいろいろな川と接してきた。子供の頃遊んだ川、家族とともに行った公園沿いの川、旅行中の車窓からふと目に入った川、もちろん仕事で接した川もあり、様々な川と接してきたように思う。

社会に出てからの頻度を考えると圧倒的に仕事で接した川の数が多い。仕事となるとこちらも身構えて接するようになるが、時として仕事を忘れてしまうようなすばらしい川の風景に出会うことがある。最近、すばらしい川の風景の中にも自然が美しいものと、人間との調和の上でのものなどいくつかの種類があるようである。これらの違いを理論ではなく感覚として身につけていくようにしていきたいと思う。

前号(24号)から編集の手伝いをさせて頂くことになりました。宜しくお願い致します。(T.O)